



天童東ロータリークラブ

超我の奉仕で、目ざせ、助け合い・支えあう社会づくり

RI第2800地区 第3ブロック・認定加盟日 1985年4月1日
承認番号№1653 例会日・毎週水曜日12:30~13:30 例会場・天童ホテル

会長 志田泰久 幹事 佐藤 豊 クラブ会報委員長 野川柱一

例会日 2012年4月1日 例会場 山形県民会館 通算 1290回 本年度 35回



会長 志田 泰久
職業 介護サービス

ここから心を広げよう 情眼を広げるために
2011-2012年度地区目標
思いやりの心を育て、広めよう

本日のプログラム

国際ロータリー第2800地区 2011-2012年度 地区大会

奉仕とは「思いやりの心」

第2800地区ガバナー 細谷 伸夫 氏

ロータリーの綱領や奉仕の理想はわかりづらい。何とかすんなり理解できるものはないかと、クラブ会長(2004~05年度)をしたときに考えていました。



そこで考えついたのが、奉仕とは「思いやりの心」であろう、ということでした。そう思った訳はまず、ポールハリスがロータリーを創った目的は「小さな町の心温まる交流」であって、それは町の人々が互いに思いやりの心を持って考え、行動することを意味すると考えたからです。次に、ロータリーは職業を「Business」から「Vocation」に変えたことです。Vocationは天職を意味し、天から与えられた仕事を互いに分担し合うことですから、当然相手への「思いやりの心」を含むからです。

そして、奉仕とはサービスを意味し、サービスとは相手の気持ちをおもんばかって行動することを言い、それは「思いやりの心」を持って対応することを言うからです。

さらに、「利他」とは思いやりの心を持って相手を利することであり、単に物質的に利することを超えるものであるからです。以上から奉仕の理想とは、思いやりの心であろうと結論づけたのです。そして今でもそう考えています。

ですから、奉仕とは思いやりの心を持って仕事をし(職業奉仕)、社会活動をし(社会奉仕)、国際交流し(国際奉仕)、新世代の育成に励み(新世代奉仕)、クラブでは思いやりの心で会員と接することで、親睦を深め、思いやりの心をクラブ運営における判断基準とし、クラブのために尽くすことをいうと考えています。それ故、私は地区目標として「思いやりの心を育て、広めよう、自分に、家庭に、地域に、世界に」を掲げ、これまで実践してきました。

『博愛を広げるロータリーの心』

RI会長代理 ビチャイ・ラタクル 氏

私は“草の根ロータリアン”がロータリーの運営に重要なことを熱心に強調しました。ロータリーが成功するためには“下から上へ”の運営が、RI役員や会長・ガバナーによる“上から下へ”の



命令よりもはるかに重要なのです。草の根からの出発がロータリーの本質なのです。各クラブでは身近で何が必要なのかを良く知っており、それを実行するのが“草の根ロータリー”の運動なのです。上から下への指令は出来るだけ少ないことが望まれます。変化は避ける事は出来ません。しかしそれはロータリーの“不変の原則”の破壊であってはなりません。クラブの自律的な柔軟で捕われない提案を、理事会では底辺の声として、真剣に取り上げなければならないのです。

最近 RI の“上から下へ”の支配、クラブの伝統的な自律性を弱める官僚的圧力が強まって来ていると感じます。RI の支配的、財政重視的な傾向は各クラブが RI 事務局に“効果的なロータリークラブとなる為の活動計画の指標”の強制的な提出や、最近では下火になってきましたが、各クラブが“Club Leadership Plan”に従うように求められている事に現れています。ロータリー財団からは資金獲得のための圧力の強化がみられます。クラブへの寄付期待額、チェックボックス、会長賞獲得の為の過大な必要条件などであります。“我々が目標を決める、貴方はそれを実行しなさい”という、上部支配の強化は、クラブの自律性を無視しており、先輩達が守ってきた貴重なロータリーの基本原則を損なうものです。ロータリーの強さは、個々のクラブの強さにあるのですから、このような官僚的支配は改めねばなりません。ロータリーは楽しい社交クラブではありません。単なる慈善団体でもありません。ロータリーは生きる道、心の有り方、魂の拠り所なのです。

我々は希望と確信を高く掲げ進みましょう。生きる強さ、奉仕の理想に対する信頼があれば総べての障害は克服できるのです。

(ホストクラブ：山形西ロータリークラブ)